ひめゆり平和祈念資料館

資料館だより

第 64 号
2019.11.30

目　次

●開館 30 周年記念リニューアル・・・・・・・・・・・・・・・ 1
●あらためて、資料を探しています・・・・・・・・・・・・・ 2
●30 周年事業を開催しています！・・・・・・・・・・・・ 3
①開館 30 周年祝賀会　②ひめゆり映像ドキュメンタリー上映会　③ 30 周年記念トートバッグ　販売中
●資料館トピックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2019 年度慰霊祭挙行／ウチナージュニアスタディツアー事業「平和学習」を実施／糸満市平和ガイド育成事業に協力／教員研修への協力、教員向け講習会開催／「夏休み親子フィールドワーク～ひめゆり学徒隊の沖縄戦」開催／ICOM（国際博物館会議）の参加者が来館／「朗読劇　にんげんだから」開催／「第 18 回平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」に参加／「沖縄県地域通訳案内士スキルアップ研修の学習会」開催／第 2 回「“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」スタート／ひめゆり平和研究所ハワイ展示プロジェクト始まる／開館 30 周年に関連する報道について
●コラム　相思樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
●本棚（仲程昌徳）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
●仲宗根政善日記抄（60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
●資料館ガイド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

ひめゆり、新しい世代へ
ひめゆり平和祈念資料館
HIMEYURI PEACE MUSEUM
開館30周年

開館30周年記念リニューアル　2020年7月22日

当館はひめゆり同窓会が 1989 年に設立した資料館です。開館以来、元ひめゆり学徒の「証言員」が展示室に立ち来館者に戦争体験を伝えてきました。

開館から 15 年目の 2004 年、証言員が展示室に立てなくなることを見越し、「体験者がいなくても伝わる展示」を目指し、展示をリニューアルしました。それから 15 年が経ち、 戦争体験者が身近にいない世代が増え、戦争との距離はさらに遠くなっています。寄せられる感想文の中にも「戦争時代」、「ピンとこない」という言葉も見かけるようになりました。

そのような「さらに戦争から遠くなった世代」に伝わる展示を目指し、来年 2 回目の全面的なリニューアルを行います。リニューアルオープンは 2020 年 7 月 22 日の予定です。

Q 何が変わるの？

ひめゆり学徒隊の展示ストーリーは今と変わりません。

◆新たに「ひめゆりの戦後」を追加します。

◆ひめゆり学徒の体験を、その時々の気持ちをたどって伝えます。

◆新しい写真やイラスト、映像などを使い、より伝わる表現を工夫します。

◆多言語の音声ガイドを導入し、証言映像に英語字幕をつけます。

リニューアルにともなう休館のお知らせ

リニューアル工事のため、以下の期間休館いたします。
ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2020（令和2）年7月10日(金)～21日(火)（12日間）

あらためて、
資料を探しています

ひめゆり同窓会　同窓生のみなさまへ

ひめゆり平和祈念資料館では、女師・一高女に関する写真資料を探しています。

これまでにも、資料館に多くのお写真をお寄せいただきましたが、まだまだ個人のアルバムの中にも、素晴らしい写真が眠っているのではないかと思います。ぜひ、みなさまがお持ちの、女師・一高女時代の写真をお見せいただけないでしょうか。

写真の他にも、日記やお手紙など、当時のことがわかるものも探しています。お持ちの方がいらっしゃいましたら、資料館の学芸課職員までお申し出ください。ご連絡お待ちしています。

なぜ今、資料をさがしているの？

同窓会が行った学校沿革誌や写真帳制作、資料館開館の際にも多くの資料提供がありましたが、女師・一高女の全貌を理解するには、まだまだ足りません。沖縄戦で公的な資料がほとんど残っていない沖縄で、同窓生のみなさんがお持ちの資料は、当時の学校の様子を知る貴重な資料です。

これまで寄せられた資料のうち、複製させていただいたものもありますが、３０年ほど前の技術で行っているため、利用しづらくなっています。

現在の技術で、もっとよい状態で資料を残したり、多くの方にご紹介できれば、と考えています。

卒業アルバム　（特に下記の2点）

・昭和16年卒
・昭和18年卒

こんな写真、お持ちでないですか？

・友達と撮ったスナップ写真
・分団や地域で撮った写真
・その他なんでも

ぜひ、読ませてください

・日記帳やノート　・サインブック
・お手紙　・「自分史」

ひめゆり、新しい世代へ
ひめゆり平和祈念資料館
HIMEYURI PEACE MUSEUM
開館30周年

問合せ・連絡先
ひめゆり平和祈念資料館　学芸課
電話：０９８－９９７－２１００

2019年10月

30周年記念事業を開催しています!

◆ひめゆり平和祈念資料館　開館 30 周年祝賀会

ひめゆり平和祈念資料館の開館 30 周年を迎えるにあたり、30 年の間、資料館の活動に協力し、支えて下さった方々に、感謝の気持ちを伝える場にしたいと、6 月 14 日、「ひめゆり平和祈念資料館　開館 30 周年祝賀会」を那覇市内のホテルにて開催しました。各中等学校同窓会の皆さまもご参加下さり、証言員（元ひめゆり学徒）や職員あわせて 79 人が集まりました。

「かぎやで風」による幕開けのあと、前理事長の本村つるが乾杯の音頭をとりました。久しぶりの再会を喜ぶ声や、資料館の 30 年の活動を振り返るスライドショーを見て、懐かしむ声が聞かれました。その後、資料館設計に携わった株式会社有建築事務所の玉那覇有紀氏、開館までの経緯を取材した NHK の関田裕明氏、故上原当美子証言員のご長女金城美智子氏から、思いの込もったご挨拶をいただきました。

会は終始和やかに進み、参加された皆様からは、とてもあたたかい雰囲気だったと感想がありました。証言員や職員にとっても、資料館が大勢の方に支えられてきたことを改めて実感する場となりました。

大勢の参加者で賑わった祝賀会

◆ひめゆり映像キュメンタリー上映会開催

6 月 29 日に、ひめゆりピースホールにて「ひめゆり映像ドキュメンタリー上映会」を行いました。ひめゆりをテーマにしたテレビドキュメンタリー映像の上映と、制作に関わった方々を交えてのトークが行われ、約 60 名が参加しました。

上映したのは、開館当時のひめゆり学徒たちの姿を追った、「沖縄・ひめゆり学徒～平成へのメッセージ」（NHK 沖縄放送局、1989 年、44 分）と、近年の当館の次世代継承の活動を追った、「ひめゆりから HIMEYURI へ」（琉球放送、2017 年、22 分）の 2 作品で、上映後には、2 作品の制作に関わった方を交えてトークを行いました。

上映会に参加したひめゆり同窓生

トークでは、元 NHK で、フリーディレクターの仲松昌次さん、琉球放送報道部デスクの吾津洋二郎さんに加え、開館当初から元学徒とともに働いてきた館長の普天間朝佳が登壇しました。番組制作時の思い出や、映像の感想、当館の活動などが語られ、戦争体験の継承について考える時間となりました。

映像上映後のトーク

参加者のアンケートには、「話せない、話したくないというものも全てひっくるめて『ひめゆり』なのではないかという説明がよくわかった」、「戦争を体験していない者が学徒の方々の残り少ない時間を共有しながら、共に未来をみすえて活動している姿に感動しました」、「生きのこった人たちに向きあってきたスタッフのみなさん、取材をした方の沖縄戦のとらえ方、継承のあり方にたくさんの気づきがあった」といった感想がありました。

進行：仲田晃子説明員

仲松昌次氏

吾津洋二郎氏

普天間朝桂館長

◆開館 30 周年記念トートバッグ　販売中！

開館 30 周年を記念し「ひめゆり平和祈念資料館オリジナル　トートバッグ」（500 円。税込）を販売中です。カーキ、ホワイト、ネイビーに、30 周年記念ロゴがデザインされています。ホワイトのロゴカラーはピンクです。当館での販売、または通信販売を承っております。限定品のため、在庫のみの販売となります。

詳細は、ひめゆり平和祈念資料館（098-997-2100）までお問い合わせください。

※ネイビーは完売しました。

資料館トピックス

◆ 2019 年度慰霊祭挙行

6 月 23 日、「2019 年度ひめゆりの塔慰霊祭」が挙行されました。今年の参列者は、ご遺族、ひめゆり同窓生、関係者あわせて約 400 人でした。ご遺族の世代交代も進み、若い世代の参列も目立ってきています。開館 30 周年の節目ということもあり、多くの報道関係者の姿も見えました。昨年同様、慰霊祭前に糸満高校合唱部による「レクイエム・コンサート」も行われ、ひめゆりの塔前に鎮魂の歌声が響きました。

昨年までは式の司会や開式、閉式の言葉などを資料館の証言員（元ひめゆり学徒）が担当していましたが、今年から職員に交代しました。今後も、職員一同、慰霊祭という場を大切にしていきたいと思います。

受付でご遺族を迎える証言員と職員

参列者によるご焼香

◆ウチナージュニアスタディツアー事業「平和学習」を実施

8 月 1 日、沖縄県主催ウチナージュニアスタディー事業の一環として、アメリカ、カナダ、ボリビア、ブラジル、アルゼンチン、ニューカレドニア、オーストラリアから沖縄県系人の子弟など 33 人（海外 16、県内 17）が当館を訪れました。展示見学では古賀徳子学芸員が同行、説明を行い、参加者からの質問を受けました。その後、アニメ「ひめゆり」の視聴やワークショップなどを行いました。沖縄戦についての学びやグループワークを通して、異なる価値観を知り認め合う機会となり、平和の構築のためにはどうしたらいいか考える場となりました。

グループワークの一場面

◆糸満市平和ガイド育成事業に協力

8 月 3 日、「糸満市平和ガイド育成事業」の研修を受け入れました。この事業は、糸満市内小中学生が戦争について学び、平和ガイドとして活動することを目的とした事業です。中学生 9 人、高校生 1 人の計 10 人が当館での研修に参加し、ビデオ「ひめゆりの証言員たち」の視聴と展示室内外でのガイドツアーを行いました。

普天間朝佳館長が、挨拶のなかで「みなさんは沖縄戦を伝える仲間です。一緒に頑張りましょう」と受講生を激励しました。島袋淑子前館長は「次はみなさんが伝えてくれると思うと、本当にうれしい」と思いを伝えました。

終了後、受講生から「より詳しくひめゆり学徒隊について知ることができた。知らなかったことを学び吸収して今後のガイドに生かしたい」（中３女子）、「映像から証言者の気持ちが素直に伝わってきた」（中３男子）などの感想が寄せられました。沖縄戦を伝えていく仲間として、今後の活躍を期待します。

受講生を激励する島袋淑子前館長

◆教員研修への協力、教員向け講習会開催

７月 25 日、「島尻地区中堅教諭等資質向上研修」に協力しました。教職員 32 人が参加し、アニメ「ひめゆり」視聴と展示ガイドツアーを実施しました。研修後、代表の先生から「普天間館長の挨拶にあった“教育が非常に大切で生徒を死に追いやることもある”との言葉が印象に残った。生徒を導く立場として、沖縄戦の継承、なるべく本当の情報に導くこと、自己決定権についてなどしっかり指導していきたい」と決意が述べられました。

８月２日には、「ひめゆり平和祈念資料館　教員向け講習会」を開催し、24 人が参加しました。昨年から糸満市教育委員会の初任者研修を兼ねて実施しています。また、糸満市立高嶺中学校からは、校内研修という位置づけで、９人が参加しました。

ワークショップ、ガイドツアーのあと、「展示をどう使うか」のグループワークを行いました。児童生徒を引率する教師自身が何を見せたいのか、事前学習をどう組み立てるかなどを熱心に話し合いました。「生徒の立場になって考えることができたのと、生徒に伝えるためにどう工夫できるかを情報交換できた」、「どんな方法で伝えたらよいのか、その手段、引き出しを増やすことができた」などの感想が寄せられました。

中堅教諭等資質向上研修でのガイドツアー

教員向け講習会でのグループワークの発表

◆「夏休み親子フィールドワーク～ひめゆり学徒隊の沖縄戦」開催

7 月 27 日と 8 月 10 日に、「親子フィールドワーク～ひめゆり学徒隊の沖縄戦」を開催しました。夏休みにあわせた親子向けの企画で、県内外から、7 月 27 日は 8 人、8 月 10 日は 9 人の参加者がありました。

資料館から徒歩で伊原第一外科壕へ行き、ガマの様子を観察したり、ガマで実際におきた事を伝える内容で、沖縄戦の間はガマの中に隠れていなければならなかったことや、ガマに直撃弾が落ちたときのこと、米軍が迫ってきてガマを出なければならなくなったことなどを伝えました。また、砲弾の破片に実際に触れてもらい、重さや鋭さを実感し、砲弾の激しさを想像してもらいました。

ガマに行くのは初めてという方も多かったですが、この壕は米軍に見つからなかったのですか、といった具体的な質問も出て、参加者は、それぞれに沖縄戦を想像する時間を持っている様子でした。

職員によるガマ（伊原第一外科壕）の説明

◆ ICOM（国際博物館会議）の参加者が来館

9 月 8 日、ICOM（国際博物館会議）の参加者 24 人が来館し、普天間朝佳館長から沖縄戦とひめゆり学徒隊のガイダンスを受けた後、展示を見学しました。2017 年の INMP（平和のための博物館国際ネットワーク）で交流したオランダ国立ホロコースト研究所のエリック・ソーメルスさんやアンネ・フランク・ハウスのテレシエン・ダ・シルヴァさん夫妻も参加されていました。現在、第 6 展示室で開催中の企画展「戦争体験を未来につなぐ」には「ヨーロッパ平和交流の旅」も展示されています。皆さん、ソーメルスさんの写真やアンネ・フランク・ハウスを紹介したパネルを見て、喜んでいました。参加者からは、リニューアルの経緯などについて質問がありました。

館長のガイダンスを聞く参加者

海外の博物館との交流を紹介した企画展を見学

◆「朗読劇　にんげんだから」開催

10 月 20 日、那覇市安里のひめゆりピースホールにて、「朗読劇　にんげんだから」を開催しました。この作品は、人間が地球に誕生し、現代へとつながる壮大な時間の中で、言葉が生まれ、家族の愛が育まれ、戦争が生まれ、そして希望が生まれることを言葉の力を通して伝えるという内容になっています。原作は作家の大城貞俊さん、演出は役者で琉球大学准教授の上江洲朝男さん、朗読は上江洲さんと高宮城六江さんが担当しました。最後の群読では沖縄国際大学の学生のほか原作者の大城さんや当館の普天間朝佳館長も出演しました。

朗読劇最後の群読の様子

会場には約 20 人の方が来場し、朗読の世界に引き込まれていました。参加したバスガイドの方は「とても感動しました。私も伝える仕事をしているのですが、参考になりました」という感想を述べていました。

◆「第 18 回 平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」に参加

10 月 26 日、27 日に埼玉県で開催された「第 18 回 平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」に前泊克美学芸員が参加しました。国立女性教育会館、NPO 中帰連平和記念館、丸木美術館が開催地となりました。

2 日間で 14 件の報告と、武蔵大学教授永田浩三氏による講演「戦争と平和をどう伝えるか」、丸木美術館・中帰連平和会館の見学が行われました。各施設の報告では、来年の INMP（国際平和博物館会議）への参加呼びかけ、ボランティア活動の取り組み、企画展の報告、紙芝居の実演、リニューアル後の状況など、様々な紹介と質疑応答がありました。前泊学芸員は「ひめゆり平和祈念資料館の近況とリニューアルについて」の報告を行いました。あいちトリエンナーレでの表現の不自由展中止について、会出席者による抗議声明の採択もなされました。

年 1 回の全国交流会は、共通の課題を認識し、議論し、共有できる貴重な場です。来年は INMP の開催と合わせ、京都での開催が決定しています。

永田浩三氏による講演

丸木美術館の岡村幸宣学芸員による説明

◆「沖縄県地域通訳案内士スキルアップ研修の学習会」開催

10 月 26 日、「沖縄県地域通訳案内士スキルアップ研修」の学習会を実施しました。中国語の通訳案内士が対象で参加者は 19 人でした。ひめゆりの塔ガイダンス、映像「ひめゆりの証言員たち」視聴と学芸員、説明員によるガイドツアー、質疑応答や感想交流を行いました。

感想交流で、職員からの「中国からの観光客は沖縄戦や平和教育に関心を持っているか」という質問に対し、参加者からは「政治的な観点ではなく、住民の視点で沖縄戦がいかに悲惨な戦争であったのかを伝えると耳を傾けてくれる」、「香港では沖縄での修学旅行を『平和教育』ではなく『生命教育』と位置づけ実施している学校が多い。命の大切さを伝えるため、沖縄戦は重要な学習内容」と返答がありました。また、アンケートには、映像の「平和のための戦争はない」という体験者の言葉が印象に残った、中国語の展示や翻訳機を設置してほしい、などの感想や要望が見られました。これらの意見や要望は、今後の活動の参考にしていきたいと思います。

説明員によるガイドツアーの様子

学芸員のガイダンスを聞く受講生

◆第 2 回「“ ひめゆり ” を伝える映像コンテスト」スタート

ひめゆり平和研究所では、「“ ひめゆり ” を伝える映像コンテスト」を今年も開催しています。

第 2 回目のテーマは「ひめゆりと○○」。例えば、「ひめゆりと私」、「ひめゆりといのち」、「ひめゆりと平和」など、応募者に、ひめゆりとつながるテーマを設定していただきます。表現方法は自由。ドキュメンタリー、フィクションはもちろん、ダンスやラップなどのパフォーマンスを映像作品にして応募してもかまいません。

締切は 2019 年 11 月 30 日（当日消印有効）です。みなさまのご応募お待ちしています！（詳細は公式 HP http://www.himeyuri.or.jp/JP/top.html　をご確認下さい）

◆ひめゆり平和研究所　ハワイ展示プロジェクト始まる

ひめゆり平和研究所は、海外発信の一環として、ハワイで沖縄戦とひめゆりを伝える展示会プロジェクトを 3 年間計画で立ち上げました。今回は、その取り組みの第一歩として、8 月 29 日～ 9 月 5 日の間、ハワイでの調査・交流、視察、平和講話を実施しました。

調査・交流として、ひめゆりの塔周辺の敷地購入資金を寄付した沖縄系２世のハリー儀間真一さんの親族、ひめゆり学徒隊の引率教員であり、ハワイ生まれの親泊千代子先生の親族、また、ハワイ在住の元ひめゆり学徒、末富文子さんにお会いしました。8 月 31 日・9 月 1 日に開催された「沖縄フェスティバル」では、ひめゆり平和祈念資料館の紹介パネルや資料を配布して来場者と交流を行いました。また、2009 年にキャッスル高校で「ひめゆり」をテーマにした演劇が行われたと知り、その劇を指導した先生から、当時の様子をお伺いすることもできました。

ハワイ大学では、同大学付属の沖縄研究センターとハミルトン図書館の協力により、ひめゆりのミニ展示を実施しました。また、9 月 4 日には、同図書館にて、普天間朝佳館長が海外で初となる「平和講話」を、その後、仲程昌徳理事長が、なぜハワイでひめゆりの展示会を開催するのかの説明を行いました。会場には、元ひめゆり学徒で、証言員でもあった宮良ルリさんの教え子だった方、ひめゆり学徒や同窓生と関わりのある方々も出席していました。そのような予想外の出会いや交流も多くあり、これからの調査の発展が期待されるイベントとなりました。

今後は、展示会の事前調査として、ハワイに住む若者への意識調査などを計画しています。なお、この事業は、2019 年度の沖縄県文化振興会「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」の補助を受け実施しています。

ひめゆりの展示設置の様子（ハミルトン図書館）

ハミルトン図書館での普天間館長による平和講話

ハワイ大学沖縄研究センター長の石田正人先生と
（右から 3 番目）

ハワイ展示会の説明をする仲程理事長と
通訳をする琉球大学の喜納育江先生

◆開館 30 周年に関連する報道について

今年は開館 30 周年の節目であり、報道機関による取材を多数お受けしました。ここでは、今年の 1 月から開館 30 周年を迎えた 6 月までの半年間の、開館 30 周年に関連する報道についてご紹介します。

沖縄の地元紙「沖縄タイムス」、「琉球新報」2 紙あわせて記事掲載回数 37 回、両紙とも、6 月 23 日前後に 30 周年に合わせた連載や特集紙面を掲載してくださいました。全国紙の「朝日新聞」・「朝日小学生新聞」、「毎日新聞」、「読売新聞」では計 10 回の掲載がありました。時事通信、共同通信でも関連記事が計 4 回配信されています。また、琉球朝日放送、琉球放送、ＮＨＫラジオ第 1 放送、ＮＨＫ沖縄およびＮＨＫ（全国）のニュース番組でも特集が放送されました。ＮＨＫ沖縄では、ローカル番組で特集が組まれました。6 月 23 日の慰霊の日には、ＮＨＫ「全戦没者追悼式」の生放送に、普天間朝佳館長が出演しました。

取材内容は、開館 30 周年を振り返るロビー展示、初の資料館紹介ムービー制作、30 周年記念バナー（横断幕）の設置や記念ロゴの制作、30 周年記念祝賀会、ひめゆりの映像上映とトークの開催などです。特に、4 月に実施した初のご遺族対象戦跡フィールドワークや来年 7 月に予定している 2 回目の展示リニューアルについては、多くの報道機関がとり上げています。

また、各報道を目にした方々から、リニューアルへのご意見なども数多く寄せられ、広報の重要性を改めて実感する機会となりました。

相思樹

ご遺族のみなさんと戦跡をめぐって

説明員　仲田晃子

今年四月に、初めてご遺族を対象にした戦跡フィールドワークを実施しました。ご遺族のみなさんとは、年に一度の慰霊祭の折りにお目にかかることはありましたが、当日はなかなかゆっくりとお話することがかなわずにいました。開館三十周年の機会に、ご遺族と交流する時間を持ちたいと考えて計画しました。

参加された方のなかには、事前に本や資料を丁寧に読み、メモを持ってこられた方々、姉の名前が出てくる元学徒の証言が載った新聞記事を大事に手にされている方もいらっしゃいました。小さい情報を頼りに、少しでも亡くなった方のことを知りたい、なんとか足取りをたどりたい、というお気持ちに触れました。

職員のみで戦跡ガイドを行うことも初めてのことで、ご遺族を前に、私たちが話すことがあるだろうかと、とても緊張していましたが、学校跡地が栄町であることを知らなかったという方や、初めて南風原の陸軍病院壕跡に行った、亡くなった親族がここにもいたとは知らなかった、という声もあって、驚くと同時に、このような機会が持てたことを嬉しく思いました。

当日は、いきとどかないことも多くありましたが、またやってほしい、という声もたくさんいただきました。戦跡めぐりは学習目的で行うことが多いですが、戦跡めぐりをすることで沖縄戦に向き合う時間を持つこと自体を大事に思ってくださっているのだと感じました。

これまで、壁に掛かる遺影や元ひめゆり学徒のみなさんの語りを通して、亡くなった方に接してきましたが、今回は、ご遺族のみなさんとの交流を通して、ひとりひとりの学徒に接する機会ともなりました。戦争体験のない私たちにとって、とても貴重な経験となりました。

本　棚

仲程　昌徳

川満彰『陸軍中野学校と沖縄戦　知られざる少年兵「護郷隊」』（吉川弘文館 2018）

大田昌秀は「沖縄戦の特徴とは、いったい何か」と問い、「大本営にとって沖縄戦は、当初から＜捨て石＞作戦の意味しかもっていなかったという事実である。つまり沖縄作戦は、本土防衛の準備が完了するまでの、いわば防波堤的な役割の戦闘でしかなかった。したがって、守備軍の＜玉砕＞は、当初から計算ずみであった。米軍が上陸する前から陸軍中野学校出身の諜報要員たちが、沖縄守備軍の＜玉砕＞後の活動に備えて、沖縄各地に潜伏していたこともその一証左である」（『総史沖縄戦』1982 年 8 月）と書いていた。大田が指摘している通り、沖縄戦は「本土防衛の準備が完了するまでの、いわば防波堤的な役割の戦闘でしかなかった」のは戦記の示している通りだが、「沖縄各地に潜伏していた」とされる「陸軍中野学校出身の諜報要員」たちは、「＜玉砕＞後の活動に備えて」いったい何をしたのだろうか。

沖縄に送り込まれてきた「陸軍中野学校出身の諜報要員」たちが、何をしようとしたか、そして何をしたかについては、文書類や証言等もあってある程度知られていたが、その全体像については不明な点が多かった。

本書は、断片的にしか知られてなかった陸軍中野学校出身者たちの動向を多くの史・資料、証言等を用いて追跡していったものである。参謀本部が沖縄に送り込んできた陸軍中野学校出身者は、「遊撃戦闘員二九名、特務隊一三名」であった。沖縄を守備した三十二軍は、彼らを「司令部参謀部情報班、西表島遊撃隊、新たな任務となる離島残置諜者」として「九つの島々に配分・再配置」したので、沖縄本島北部に残った遊撃戦闘員は十三名であったといい、十三名のうち七名が第三遊撃隊、残りの六名が第四遊撃隊に配置されたという。

沖縄で組織された遊撃隊が、第三、第四となっているのは、すでに第一、第二の遊撃隊が存在したからである。第一遊撃隊は、中部ニューギニアへ派遣、第二遊撃隊は「西部ニューギニアの北端、フィリピン諸島に近いモロタイ島に配置」されたという。遊撃隊は、「住民を戦闘員に仕立て上げ、戦力と化すこと」にあったといわれているように、第三、第四遊撃隊もまさしく「住民を戦闘員に仕立て上げ」た部隊であったが、「住民」は住民でも、その多くが少年たちであった。遊撃隊の隊員が「少年」たちで組織されたのは、予測される米軍の進行を食い止めるための兵士の絶対的な不足を補うためであり、北部地域の少年たちで組織されたのは、上陸してきた敵の後方攪乱を主目的としたことによるものであった。

陸軍中野学校出身者たちによって組織された第三遊撃隊、第四遊撃隊が第一護郷隊、第二護郷隊と呼ばれたのは、「故郷は自らの手で護る意識」を高めるためであったとされる。同集落ごとに組織された少年たちの集団は、「故郷を護る」ために、「諜報要員」の命令をよく守り、悲惨な最期を迎えることになる。本書は、そのことを余すことなく伝えようとしたものであった。

本書は、また第三、第四遊撃隊の動向だけでなく、やはり陸軍中野学校出身者が担った「離島残置諜者」や「大本営陸軍部直轄特殊勤務部隊」についても、関係者の多くの証言をもとに聞き取りを行っていた。前者は「身分を秘匿して民間人の立場で情報を収集し、万一、米軍が上陸してきた場合、それまで訓練していた住民を戦闘員と仕立て上げ遊撃戦を行う」任務を担った者たちであり、後者は、「第三二軍の戦況とその後沖縄に駐留するであろう米軍の動きを諜報し、大本営へ直接送信すること」が期待された部隊である。

沖縄戦が特異な点は、そのように沖縄が敵の手に落ちても、戦いは終わったわけではなく、次なる戦いのために潜伏して、敵の情報を集め、後方で敵の戦力の攪乱を画策するための隊員や部隊が配置されたことで、信じがたい事件が各地で起こったことである。

本書は、そのような事件の数々をとりあげていたが、事件の陰惨さは、陸軍中野学校出身者だけの仕業によるのではなく、そこには現地の人々の協力があったことも見逃すことなく付け加えていた。日本軍というのは、必ずしも日本本土からきた兵隊ではなく、沖縄出身兵士を含むということを忘れてはいけないことを喚起し、最後に戦争責任を問い、その向き合い方の一つを示していた。

本書は、沖縄戦研究で手薄だったといっていい一面を鮮明にしたものとなっていよう。

仲宗根政善日記抄（60）

前号に引き続き、仲宗根政善日記より資料館建設にかかわる箇所をご紹介します。

［1983 年］二月十二日

八紘一宇と紀元節をたたえる者が激増して来た。首相、日本列島を不沈母艦といい、三海峡封鎖をさけぶ。

不沈母艦日本列島と君は言えど核の焦土に生思われず　　成松勇策

朝日歌壇

自らの命をそとに置き防衛論叫ぶ馬鹿者め

仲宗根

昨今のこんな状況なので、しきりにひめゆりの塔の資料館のことを思いつづける。今朝早く目が覚めた。

日本一いい紙に戦没職員生徒の氏名を本村つるさんに書いて貰って、一冊につづり、立派に製本して、ガラスのケースに保管したい。もう一つを巻物にして、全員の写真を展示したところにひろげ、□□ての氏名をくりひろげて展示したらと思ったりした。つぎのわかぞら会（そう命名したい）にこれをぜひ申し出たい。もちろんこの費用のいっさいは、私が負担したい。

みんなみの岩のはてまで追はれ来て

人しれず死ぬ地獄のさびしさ

喜屋［武］断崖に追いつめられて、死をみつめていたとき、誰にも知られずここで死んでしまう孤独感にたえなかった。

一人一人の氏名を丹念に記し、一人一人の氏名を世の人々の眼にふれさせることが供養にもなると信じる。こんなことを思って、資料館覚書を書き始めた。ただ女子部一高女の生徒だけでなく、軍医も看護婦も炊事婦も一様に一人一人とぶらってあげなければならない。

皆が知慧をしぼればどんなすばらしい資料館が出来るかもしれない。造って行〔く〕過程でわれわれは心に平和を創造して行かなければならない。資料館造りは平和の創造である。このことこそ重要なのだ。資料を蒐集して、他人に見せようというのではなく、一人一人が平和創造の心を結集することでなければならない。参加する人々の心が尊いのである。資料館がただ見せるためのものであってはならない。平和を造って行くことこそが大切である。他に展示して見せるというより、心からなくなった方々をとぶろう気持こそが大切である。一銭であっても［よ］し、十銭であってもよし、心から芳志を寄せて下さる人々の心を大切にしたい。決して一般募金のように金集めが主になってはならないし、平和を造る人々の心を結集して行くものでありたい。

［1984 年］十月二十七日

大湾梅成氏は元校長。読谷村渡具知〇〇〇番地。長女芳子二女敏子。敏子さんはひめゆりの塔の壕で、昭和二十年六月十九日に、ガス弾で最期を遂げた。慰霊祭のときにはいつも真先に来られて、娘の霊を弔われる。今度平和資料館建設資金として、家族ぐるみで五十万円の大金を寄付されたのである。娘らのことを世間から忘れ去られたくない念願だと思う。いい資料館を建設して上げたい。

拝啓　その後もおかわりもなくおすこやかにお過しのことと存じます。この頃はご無沙汰ばかりで目にかかる機会もなく失礼しております。

今朝の新聞で、ご尊顔を拝し、芳子さんの御顔も拝見して、しみじみと敏子さんのことを思い浮べました。平和資料館建設募金に家族ぐるみで大金のご芳志を賜り、恐縮にも存じながら、感激致しております。ご遺族の方々のお心は出来るだけおわずらわししないつもりでおりますけれども、御芳志有難く存じます。

なくなった乙女だちは、世にも知られず消えて行くことが何より悲しく思ったにちがいありません。何とかお名前だけでも永久に残したいと存じております。生徒の遺品が残っておれば、ぜひ保存致したいと思います。コピーにしてでも。何かかたみになるものがございましたら、さしあたり目録だけでもお知らせいただけたら有難く存じます。ご芳志にそうべく出来るだけいい資料館を同窓生が力を会せて造りたいと念願しております。

御芳志に深く深く感謝申し上げます。

一層ご壮健でお過し下さいますように

十月二十七日

仲宗根政善

大湾梅成様

［1985 年］

一月二十二日、新里啓子さんから遺族の名簿が出来ているが、お届けしましょうかとの電話。先日瀬良垣えみさんのお母さん和枝さんが、平和資料館建設資金にご寄付なさったことを承って、その住所がしりたいと伝えてあった。それを気にとめておいて知らしてくれたのである。やさしいあかるい声だ。六月十八日解散の日から喜屋武断崖、摩文仁・真壁と壕を転々として八月二十二日につかまって助かった生徒である。四十年もへた今日、生きながらえた生のやさしいあかるい声を聞いていると生命のひびきがする。もう桜の花のほころびかける時季である。平和な時だ。生命ほどはかないものはない。新崎昌子さんと新里さんの生き抜いたことも思うと、生命の強さを感じる。

［1986 年］九月十五日

（前略）仲嶺和雄君が Hawaii Press に「儀間真一氏を憶う」の文を掲載してくれた。君の好意に心から感謝する。儀間君があの時、ひめゆりの塔の敷地二千坪を買ってくれなかったら、今頃ひめゆりの塔はどうなっていたことか。あれほどの篤行を口にもせずつつましいその人柄には愈々頭が下〔が〕る。ハワイの人々皆に知ってもらいたかった。その肖像画は、同窓会に寄附された。平和資料館に永久に保管してその功績をたたえたい。

女子部一高女の生き残りたちが、我々のみ生き残って申訳ないと、もう二百回近くも集って資料の蒐集をしている。その資料館は全学徒の資料館にしたいというのが皆の念願である。今の中から他の女学校にも呼びかけて、同じく資料蒐集に協力してもらうことが必要だ。さもなければ、完成してから、これはもっぱらひめゆり同窓会の資料館ではないかと、くちられるおそれがある。宮良ルリさんにこのことを伝えておいた。

解散後一人一人がどこに行きどのような行動をしたかを地図の表に示す必要があるのではあるまいか。

ひめゆりの塔慰霊祭弔辞（欠席のため）朗読はしなかった。

弔辞

野田貞雄校長先生をお始め、職員十六名、生徒百九十四名のみたまの前に、謹しんで、哀悼のことばを申し上げます。

四十二年の歳月が、たちましたとは言へ、とてもそんな歳月が過ぎたとは思えません。

南風原陸軍病院の三角兵舎で、三月二九日、最後の卒業式がとり行われました。ローソクの光に照らされた野田先生の温顔が浮び悲痛な最後の訓□港川から空気をふるわせて来る艦砲のひびき（ママ）中で、モンペ姿のまま聞きいっていた、貴方方一人一人の御顔がいまもそのまま浮んでまいります。

貴方方は永久にそのままの乙女の姿で□りました。皆さまのお友達はもう六十前後、子や孫にかこまれて、至って仕合に送っています。皆さんの御両親様御兄弟姉妹がどんな思いを寄せておられるかと、まことに哀悼にたえません。

皆さんがどうしてなくなられて、我々のみがどうして生きながら〔え〕たか、私は今もって、その不思議を思いつづけています。（中略）

ひめゆり同窓会では貴方方の死を無にしない為ひめゆり平和資料館建設を計画しています。生き残りの者が集まり、資料委員会を作っています。皆は口口にどうして我々のみが生き残ったの！と言い自責の念にかられています。私は感にたえかねています。もう約二百回も集り資料の整備に専念しています。

なくなった友達の悲しみを自らの悲しみとして、平和を悲願してすべての県民に、すべての国民にあまねくつたえひとしく県民、国民の悲して世界の人々にも伝えひめゆりの塔を平和の原点となることを信じています。（中略）謹んで二百十柱のみたまのごめいふくをいのり申し上げます。

昭和六十二年六月二十三日

職員代表　仲宗根政善

※読みやすさを考慮して、字句を補った箇所がある。

※〔 〕は編集で補った。※□は判読不能。

※旧字体は新字体へ変更し、明らかな誤字は改めた。

ひめゆり平和祈念資料館のご案内

●入館料改訂のお知らせ●

日頃より当館へのご支援、ご協力ありがとうございます。さて、本年 10 月の消費増税、リニューアルオープンに伴い、2020 年 7 月 22 日より、下記の通り入館料を改定させて頂きます。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

個人	①大人	310 円→ **450 円**	団体	①大人	280 円→ **400 円**
	②高校生	210 円→ **250 円**		②高校生	190 円→ **200 円**
	③小中学生	110 円→ **150 円**		③小中学生	100 円→ **110 円**

なお、リニューアル工事のため **2020（令和２）年７月 10 日（金）～７月 21 日（火）**まで **休館** となります。

◆多目的ホールご利用のご案内

当館ではひめゆり学徒隊や沖縄戦について学ぶための平和講話（約 45 分）、またはビデオ視聴（約 30 分）を事前予約制で承っております。ご予約は、資料館へご入館の場合に限ります。ご予約時間は以下のとおりです。お電話にて空き状況を確認後、ＦＡＸかメールにて申込書をお送り下さい。

【講話・ビデオ】9：00　10：00　11：00　12：00　13：00　14：00　15：00　16：00

※ビデオ作品　○証言ビデオ「平和への祈り―ひめゆり学徒の証言」（25 分／ 1994 年）

○アニメ「ひめゆり」（30 分／ 2012 年）

※年末年始（12 月 30 日、31 日、１月１日～３日）・旧盆（旧暦７月 13 日～ 15 日）は講話は休みで、ビデオ視聴の受付のみ可能です。慰霊祭前後（６月 21 日～ 24 日）は、ビデオ上映会のため、予約はできません。

＊ホールの収容人員は約 200 人（席）です。

＊多目的ホールは講話及びビデオ視聴以外の目的（セレモニー等）には利用できません。

＊予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルさせて頂くこともございます。

◆ご利用案内（開館時間、料金、アクセス）

①入館受付　午前９時～午後５時（閉館は午後５時 25 分）　②休館日　年中無休

③入 館 料　大人￥310　高校生￥210　小・中学生￥110

団体料金（20 名以上一括）大人￥280　高校生￥190　小・中学生￥100

④交　　通

【路線バス】旭橋・那覇バスターミナルから［89 糸満線］で 約 30 分

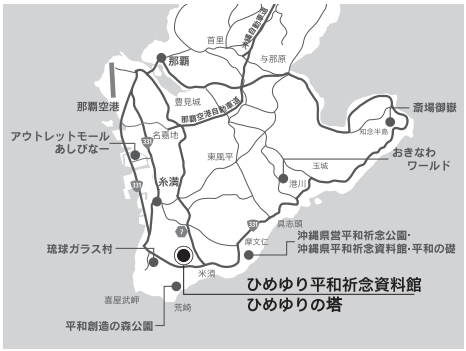
糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【モノレール・路線バス】モノレール那覇空港駅から赤嶺駅まで約４分

赤嶺駅前（糸満・豊崎向け）バス停で［89 糸満線］に 乗車し約 20 分。

糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に 乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【車】那覇空港より約 30 分



ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第 64 号　　2019（令和元）年 11 月 30 日発行

編集・発行　公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館

〒 901 - 0344　沖縄県糸満市字伊原 671 - 1　　☎ 098 - 997 - 2100

URL：http://www.himeyuri.or.jp/　Facebook https://www.facebook.com/HIMEYUIRI.PEACE.MUSEUM/